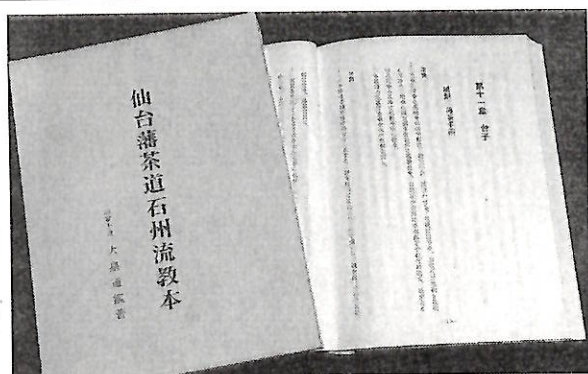




仙台藩に代々伝わる茶道の点前が記された「仙台藩茶道石州流教本」

仙台藩の茶道教本に

仙台藩お抱えの茶道「石州(せきしゅう)流清水(しみず)派」の十代目家元、大泉淑子さん(五三)仙台市



大泉淑子さん

若林区Ⅱがこのほど、江戸時代から口伝で代々継承された作法などをまとめた「仙台藩茶道石州流教本」を自費出版した。「仙台藩

石州流清水派家元・大泉さん

口伝の作法書きためる

の茶道を絶やしたくない」と引き継いだ。という一念で七十代後半から書き始め、約十五年をかけた三百九十七頁の大作だ。

石州流は、徳川家が茶道師範に採用したのをきっかけに、全国に広まった。仙台藩では二代藩主忠宗が取り入れ、指南役の清水派家元は代々、子供や弟子が継承。明治に入って大泉さんの実母が九代目、大泉さんが十代目となる「十世道鑑」

92歳、15年かけ自費出版

の作法などを初めて活字にのせた。茶道具の置き方などがある茶の湯はない」と大泉さんは自負するが、現在の弟子は約二十人。「石州流が何かの拍子で途絶えてしまわないかと心を痛め、作法を書き残そうと思いついた。全国に広まった。仙台藩では二代藩主忠宗が取り入れ、指南役の清水派家元は代々、子供や弟子が継承。明治に入って大泉さんの実母が九代目、大泉さんが十代目となる「十世道鑑」

後、夜遅くまで原稿用紙に向かった。

校正作業中の昨年十一月に病気で倒れたが、現在は快方に向かっている。大泉さんは「自分なりのお茶会も開いてみたい。懐石をやめて、うなぎどんなんかを出すのはどうかしら」とますます意気盛んだ。

本は茶道研究者ら希望者に実費で頒布する。問い合わせは郵便で〒984-0075仙台市若林区清水小路1の2、大泉淑子さんへ。